

シンポジストに、各職種の立場からご発言いただきました。

一般演題は、23題の発表をいただき、各セクションともに、多くの質問と議論で会場が熱気に包まれていました。

ランチョンセミナーでは、名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全管理部教授の長尾能雅先生に「連携不足による医療事故の実例」と題してご講演賜りました。

皆様のご協力により、盛会のうちに終了できましたことを深く感謝申し上げます。

第11回長野支部学術集会

学術集会会長：伊那中央病院病院長 川合 博



会場風景

2012年5月19日(土)、長野県伊那市の伊那市生涯学習センターを会場に、メインテーマに『未来に続く地域医療』、サブテーマに『災害に対応できる地域医療をめざして』を掲げ、

第11回日本医療マネジメント学会長野支部学術集会を開催致しました。

今年度、日本医療マネジメント学会長野支部では、多職種チーム医療の推進を目的に、新たに薬剤師分科会を立ち上げましたが、これまで以上に職種を超えた情報交換の場として、長野県全域から約330名にご参加頂き、大変有意義な会となりました。

当学術集会では、招聘講演として、北信総合病院循環器内科部長 渡辺 徳先生に『地域連携クリティカルパスで診る高齢者心不全』、長野県健康福祉部長 眞鍋 馨先生に『長野県の医療提供体制について』、特別講演として、国際医療福祉大学大学院教授 武藤正樹先生に『医療計画見直しと地域連携』についてご講演頂いたほか、エーザイ株式会社協賛によるランチョンセミナーとして、帝京大学附属病院乳がん看護認定看護師小野 智恵美先生に『乳腺チーム医療における帝京大学医学部附属病院の取り組み』についてご講演頂きました。

また、一般演題では、薬剤に関するセッションのほか、災害医療に関する演題を含め、全16題がエントリーされ、様々な職種からそれぞれの取り組みについて報告がなされました。各講演、一般演題ともに大変興味深い内容であり、職種を超えた様々な視点からご講演頂き、演者の先生方には深謝致します。

最後に、本会が成功裏に終了することが出来たことは、長野県下での地域医療連携、とりわけ多職種連携に対する関心の高さの表れであり、ひとえに関係者の皆様方のご支援によるものと心より感謝申し上げ、開催の報告とさせていただきます。

第3回新潟県支部学術集会

学術集会会長：新潟県立がんセンター新潟病院副院長 梨本 篤



会場風景

新潟県支部では、2012年6月2日(土)朱鷺メッセにて第3回新潟県支部学術集会を開催いたしました。当日は、新潟県内の医師・看護師・薬剤師・理学療法士・MSW・事務

員などの医療従事者約170名の参加がありました。特別講演では、「チーム医療とリーダーシップでモチベーションをアップして病院の組織力を強化!!」と題して、NTT東日本関東病院副院長 小西敏郎先生を講師にお迎えし、ご講演をいただきました。小西先生からは、医療安全を基盤とした組織力強化の取り組みについてお話いただき、会場は熱気に包まれました。

また、今回の学術集会には、一般18演題の応募があり、4つのカテゴリー区分で、活発な意見交換を行いました。

当支部は、これからも各職種などの垣根を越えて、新潟の医療従事者すべての人が集える場として機能していきたいと思っております。最後になりますが、今回の第3回新潟県支部学術集会開催にあたり、ご協力をいただきました皆様に心からお礼申し上げます。

第6回宮城支部学術集会

当番世話人：みやぎ県南中核病院院長 内藤広郎

このたび、日本医療マネジメント学会宮城支部第6回学術集会を2012年7月7日(土)、宮城県大河原町にて開催させていただきました。開催するにあたり、宮城支部長の櫻井先生をはじめ皆様方には一方ならぬご指導とご支援を賜り心より感謝申し上げます。おかげさまで、150名をこえる参加者で盛会裡に滞りなく終了することができました。本来は、昨年7月に開催する予定でしたが、3月11日の東日本大震災の影響で1年延期となっていました。

震災後の宮城県の復興は、現在も進みつつありますが医療機能の回復、再建は大きな課題となっている状況で、「大震災から学んだ危機管理」をテーマの一つにしました。さらに救急医療の現場の厳しい状況を踏まえて、地域全体での取り組みや院内で工夫していることなどを紹介いただくよう「救急外来現場における問題点と工夫」を二つ目のテーマに取り上げました。また、特別講演も併せて企画し、東北大学大学院医学系研究科医療管理学分野教授の濃沼信夫先生をお招きし「こうなる日本の医療2020年」のタイトルで講演をいただきました。

当日は、大雨にもかかわらず参加者の有意義な研究発表と活発な議論がなされました。